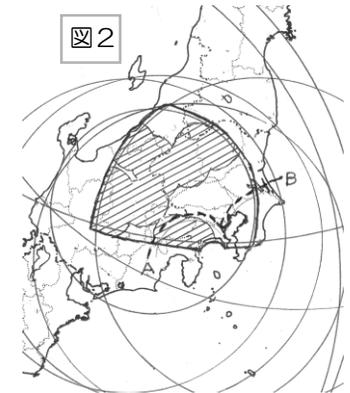
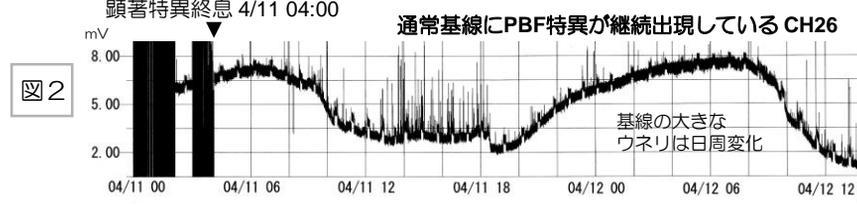
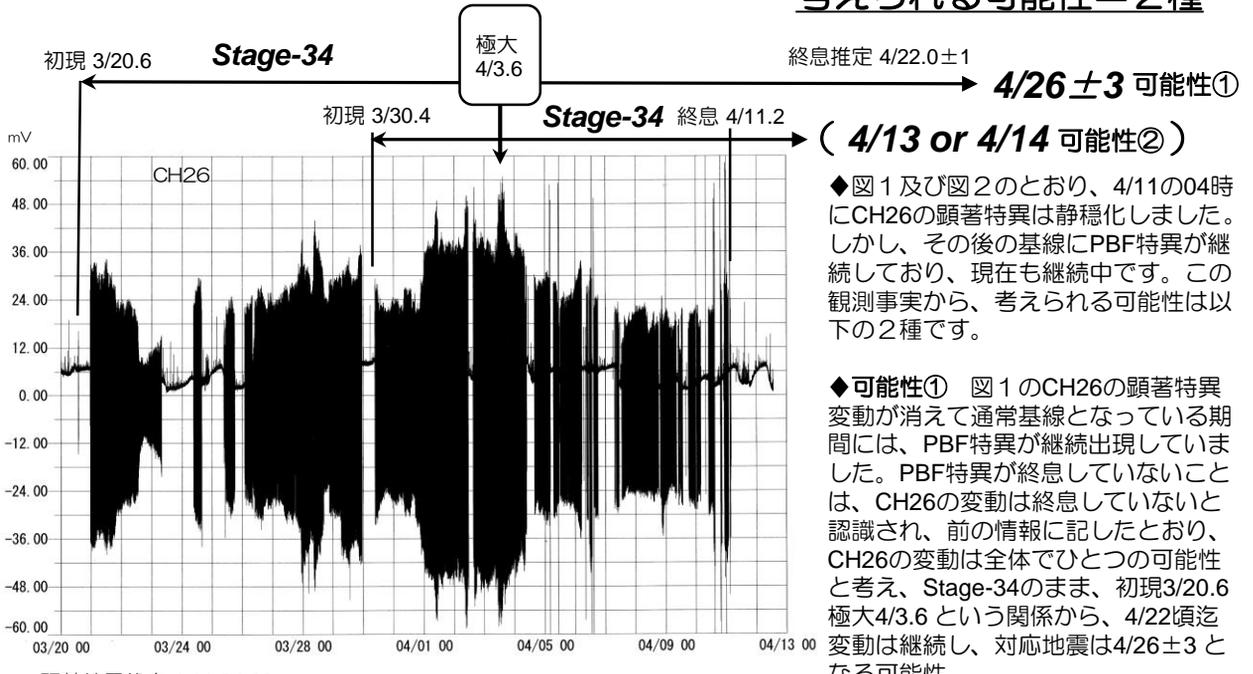


※首都圏直下・南海トラフ等大型地震は前兆検知から発生までの日数は数日の可能性が高いですが、No1778前兆は30年の観測歴上最長継続の最大に難解な変動です。No1778前兆につきましてはPHP新書「地震予報」に記したため、読者の皆様に出版後の前兆変動の変化について続報公開しています。No1778以外の他の地震前兆につきましては本HPでは公開できません。E-mail またはFAXで配信している観測情報でのみ公開しています。本観測研究をご支援下さる皆様にNo1778以外の別の地震前兆変動の有無や発生推定内容等の観測情報を配信しています。観測情報配信の「公開実験」に是非ご参加下さい。2024年1/1発生の「能登半島地震M7.6」につきましても、2023年12月31日の午前11時に、M7.3±0.5の地震が1/2±2に発生する可能性「予報」を観測情報配信参加の皆様に配信し、地震発生に間に合いました。No1778に関しては解説資料の32頁～35頁を参照下さい。

※2024.8/8発生の日向灘M7.1地震は、7/27 高知観測点の複数観測装置に前兆変動極大が綺麗に観測され（前兆規模M6.1±0.5、深海補正M0.9±3、推定規模M7.0±0.5）、前兆極大から地震発生までの日数はプレート境界型の遅いパターンTmap=12日で発生致しました。またその後は一切大型地震が推定される前兆変動は観測されておりませんでしたので、南海トラフ巨大地震発生の可能性は考えられないことを、毎日、高知観測点全観測基線波形を掲載して、日々配信の観測情報で配信公開致しました。

No1778長期変動 CH26 顕著特異変動終息 しかしCH26-PBF特異継続中  
考えられる可能性=2種



A～B弧線以南の可能性は極めて低い

4/26±3 可能性①  
(4/13 or 4/14 可能性②)

◆図1及び図2のとおり、4/11の04時にCH26の顕著特異は静穏化しました。しかし、その後の基線にPBF特異が継続しており、現在も継続中です。この観測事実から、考えられる可能性は以下の2種です。

◆可能性① 図1のCH26の顕著特異変動が消えて通常基線となっている期間には、PBF特異が継続出現していました。PBF特異が終息していないことは、CH26の変動は終息していないと認識され、前の情報に記したとおり、CH26の変動は全体でひとつの可能性と考え、Stage-34のまま、初現3/20.6極大4/3.6という関係から、4/22頃迄変動は継続し、対応地震は4/26±3となる可能性。

◆可能性② あくまでもStage-37認識で、4/11の04時の顕著特異変動終息を4/3.6極大に対する終息と考える。この場合、現在PBF特異が静穏化しないのは、大型地震のためである可能性。この可能性では、4/13 or 14 に対応地震が発生する可能性を示す。

◆CH26に顕著特異変動が出現してから現在迄を観るとPBF特異が常に見えていることから、現状は可能性①の方が考えやすい。

- 推定領域：図2の太線領域内＝大枠推定領域  
図2斜線域＝可能性が考えやすい推定領域  
震央が火山近傍領域を含む可能性高い
- 推定規模：主震 M8.0±0.3 または  
複合の場合＝M7.3±0.3 + M7.1±0.3 他等  
Log L=0.5M-1.8 (Utsu.) 式で余震を含まない大型地震の断層長 Lkmが合計で約110～150km程度となる様な複合地震活動の可能性（群発的な活動の可能性も有）  
※直近で噴火の可能性が考えられる変動はないため、現状では震央近傍火山の噴火の可能性は考えにくい
- 推定時期：可能性① 4/26±3 (4/22±1の静穏化を確認して修正予定)  
(可能性② 4/13 or 14) ※可能性①の方が考えやすい

- 推定地震：震源浅い陸域地殻地震
- 推定発生時刻：午前09時±2 or 午後06時±3 (午前09時±2の可能性若干高い)  
※30年の観測で初めて体験する長期継続変動のため推定が間違っている可能性も否定困難

※仮に推定に近い活動が生じた場合でも被害が少ないことを祈ります。